

中国地方
キラリ企業

広島県福山市に本社を置くSRホールディングス(HD)は物流やパレル、商事、機械製造、クリエイティブ事業など多様な事業会社を傘下に持つ。2013年以降、後継者不足に悩む企業からの事業承継などを通じて、多角化を急ピッチで進めてきた。環境変化に対応してリスクを分散、事業間で相乗効果を生み出すことも狙う。

SRHDの祖業である物流会社、昭和陸運は荒木栄作社長の父が1954年に創業した。荒木氏が社長を継いだのは2009年。34歳の時だった。物流業界では当時から人手不足や競争激化などによる成長の限界が指摘されていた。「物流事業だけを突き詰めることは

事業承継通じ多角化加速



SRHDの荒木社長(左)はスポーツ施設運営会社の買収などで事業範囲を広げてきた

SRホールディングス

(広島県福山市)

リスクが高い」と考えた荒木社長は、新たな成長機会を求めて13年に異業種への参入を始めた。この頃から既に事業承継の打診は舞い込み始めており、事業の多角化に向けて積極的に活用しようと考えた。跡継ぎの不在に悩む企業にとっては事業の存続が可能になり、SRHDは事業拡大の新たなチャンスを得ることになる。

17年には持ち株会社のSRHDを設立した。23

環境変化に対応、リスク分散

SRホールディングスの会社概要

所在地	福山市
設立	2017年
売上高	約100億円(2023年度)
従業員数	360人
事業内容	物流、映像、機械、スポーツなど

の事業は苦戦したが、物流や不動産といった他の事業が屋台骨を支えた。傘下の企業間での人事異動によって社員に多様な価値観を持たせ、新たな経験を積ませる。

異なる事業を束ねていることで、経営判断にあたっての情報収集でも有利になる。例えば機械製造やスポーツ関連でどんなニーズが広がっているかを事業会社経由で把握できれば、物流網をその分野へシフトして受注で先行することも可能だ。

グループ化した企業の経営は原則、信頼できる人材を経営者として外部登用し、全面的に権限を委譲する。荒木社長は傘下企業の経営にあまり口を出さない。最初の2、3年は業績が悪くなっても想定内ととらえ、長期的視野で対応する。

任せて、信じて、成長を待つのが荒木社長のやり方だ。「今後はアジアなどでの事業展開も挑戦していく」と意気込む。

(宮沢徹)

広島